

■採択年度（タイプ・申請区分）※該当の口を■にしてください。／大学名

【ASEAN 対象】H23 (A-Ⅱ) H24 (Ⅰ) H24 (Ⅱ) 【AIMS】H25／ 早稲田大学

■プログラム名

「日本語教育学」総合学習プログラムを通じた重層的・循環的人材育成事業

――以下、タイに特化した内容を主にご記載ください。――

■相手大学・機関（国名も記載ください）

タマサート大学、チュラロンコン大学

【新規追加】チェンマイ大学、コンケン大学、ナレースワン大学

■主な活動内容（概要）

【本学日本語教育学専攻、副専攻の日本人学生の短期派遣】

- ・日本語授業見学、授業参加（学生ビデオ課題の評価、日本事情に関する発表）
- ・日本語授業サポート（授業内T A、教材作成）
- ・日本語授業教壇実習（ひらがな、壁新聞、語彙マップ） ・ 課外授業（接続詞、単語）
- ・文化交流会（けん玉、コスプレ、福笑い、カルタ、ラジオ体操等、日本文化紹介活動）
- ・付属高校、周辺高校訪問（授業見学、文化交流会） ・ 現地学生宅でのホームステイ
- ・ランゲージエクステンジ（タイ語、日本語）

【海外相手大学日本語学習学生の短期受入】

- ・短期日本語集中プログラムの受講
- ・茶道体験、箱根小旅行、国際交流イベント（I C C、学生サークル主催）への参加

■プログラムの現状・課題、成功事例

（単位互換、危機管理、寮・奨学金、その他プログラムをつくる上での障害等について、できるだけ具体的に記載ください）

現状・課題

派遣実習の内容について、一定の質を確保するべく、核となるもの（授業見学、教壇実習、文化交流）は同じにしても、各大学の希望や環境に応じてプログラムを作り込む必要があり、調整に時間と手間がかかる。また海外相手大学との調整においては、先方の日本語学科の担当教員と綿密にやりとりをしており、多大な負担を強いている。海外相手大学へプログラムコーディネイトに対する貢献にいかにも報いること（謝礼、謝金）ができるかの方策を模索している。タイの国内政治情勢のこともあってか長期派遣の希望者がいない。

成功事例

次学期に短期派遣を希望する学生向けの説明会を、前学期短期派遣経験者の報告会を兼ねて毎学期開始前に開催しており、双方にとって有意義な会となっている。また前学期の短期派遣経験者が次学期派遣候補者を熱心に指導しており、単なる情報の共有だけではなく学期を超えた学生の交流が生じており、循環的人材育成が実現している。

短期派遣を経験した学生2名が、国際交流基金が行っている「日本語パートナーズ」派遣事業に応募し、採用され、2014年9月より、約半年間タイに派遣されることになり、重層的的人材育成が実現している。